

信仰の上に自分を！

2019年6月2日(日)

コリントⅡ 6:1～10

わたしたちはまた、神の協力者としてあなたがたに勧めます。神からいただいた恵みを無駄にしてはいけません。なぜなら、「恵みの時に、わたしはあなたの願いを聞き入れた。救いの日に、わたしはあなたを助けた」と神は言っておられるからです。今や、恵みの時、今こそ、救いの日。わたしたちはこの奉仕の務めが非難されないように、どんな事にも人に罪の機会を与えず、あらゆる場合に神に仕える者としてその実を示しています。大いなる忍耐をもって、苦難、欠乏、行き詰まり、鞭打ち、監禁、暴動、労苦、不眠、飢餓においても、純真、知識、寛容、親切、聖靈、偽りのない愛、真理の言葉、神の力によってそうしています。

左右の手に義の武器を持ち、栄誉を受けるときも、辱めを受けるときも、悪評を浴びるときも、好評を博するときにもそうしているのです。わたしたちは人を欺いているようでいて、誠実であり、人に知られていないうようでいて、よく知られ、死にかかっているようで、このように生きており、罰せられているようで、殺されではおらず、悲しんでいるようで、常に喜び、物乞いのようで、多くの人を富ませ、無一物のようで、すべてのものを所有しています。

アメリカでの出来事



勘違い！



ある人は、人生は自分のものだと思っていました。しかし聖書は私の人生ではなく、神が私に与えて下さった人生だということを教えています。

私たちの人生には様々な問題が起こります。ある人々はその問題の解決のために合わないキー、違う鍵を差し込んでいます。

「自分中心」という鍵です。私たちの人生は神から与えられたものだから、イエスという鍵を差し込まない限りは、物事が解決の方向に進んで行かないでしょう。

1. 神とともに働く者（1節）

神の協力者、神の同労者

「神の恵みをむだに受ける」



神からの恵みをいただくだけで、
そのいただいた恵みを誰にも
あげないこと。

ナイアガラの滝



2. 今を生きる者（2節）

主はこう言われる。わたしは、
恵みの時にあなたに答え、
救いの日にあなたを助けた。

引用：イザヤ書 49章8節

寓話(ぐうわ)



3. すべてのものを持つ者

パウロはキリストの弟子になってから、様々な苦難や迫害を経験しました。(4, 5, 8節)そこには肉体的な苦しみ、精神的な苦痛、そして靈的な苦しみがすべて含まれています。パウロはそれらのすべてに打ち勝ったのは、自分の力でなく、「真理のことばと神の力とにより」(7節)と言っています。

人は年を重ねると、持っているものを次から次へと失っていくが、イエス・キリストを持っていれば、他のものを失っても、1番大切なものを持っています。

パウロは、「私たちは神の協力者であり、今を生きる者であり、そしてキリストのゆえにすべてを持っている者だ」と言っています。

私たちは自分の人生が無限にあるように感じることがあるかもしれません、生かされていることを主に感謝しつつ、残された人生を主としっかり結びつきながら、主からの恵みを受け、他の人々との恵みを分かち合い、ともに喜びながら、日々を重ねていきましょう。

キリストにはかえられません
世の宝もまた富も
このお方が私に
代わって死んだゆえです
世の楽しみよ去れ
世の誉れよゆけ
キリストにはかえられません
世のなにものも